

災害時に発生する電気火災に備えましょう



近年、地震や台風などの自然災害が多く発生しています。

地震時に発生する火災の半数以上は電気が原因だといわれています。地震の揺れに伴う電気製品からの出火だけでなく、停電から復旧する際も、落下物・転倒物によるコードの損傷部分や稼動した電気製品から出火することがあります。2019年9月に千葉県内で発生した台風による大規模停電でも、復旧時に電気火災が発生しました。

災害時に発生する電気火災を防ぐため、知っておきたい対策をご紹介します。

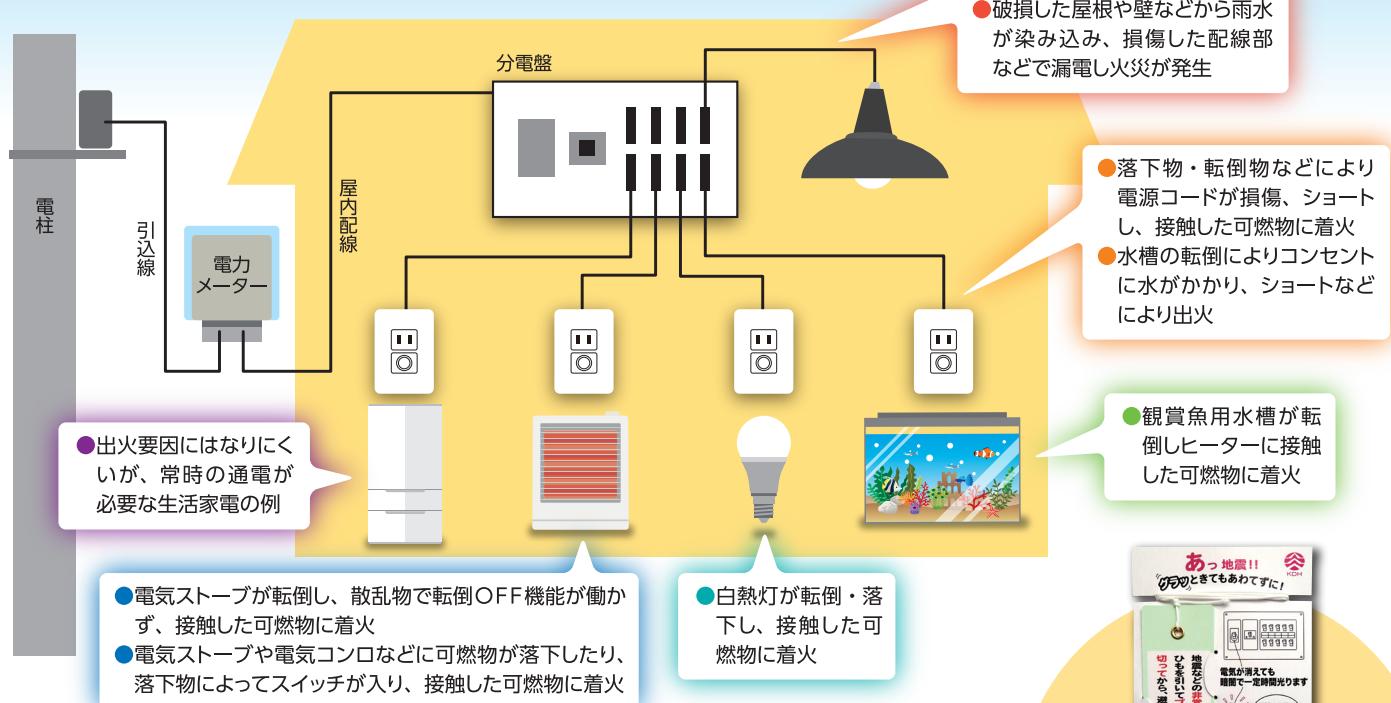
地震や風水害が起きたときは?

- ・使用中の電気製品はスイッチを切り、コンセントからプラグを抜きましょう。
- ・水に浸かった屋内配線や電気製品は漏電などの原因となるので使用しないでください。

家の外に避難するときは?

- ・電気の消し忘れによる事故を防ぐため、分電盤のブレーカーのつまみを下げてください。
※日頃から分電盤がどこにあるか確認し、分電盤付近には物を置かないようにしましょう。

災害時に電気火災が起きやすい場所は?



災害復旧時の火災(通電火災)を防ぐためには!

避難時に電気が復旧し、出火することがあるため、分電盤のブレーカーは切ってから避難しましょう。
地震発生時には「感震ブレーカー」が有効です。



保安協会では、出張相談所などで、ブレーカーのつまみに取り付ける『電気安全防災ひも』を配布しております。

地震発生時に有効な「感震ブレーカー」

感震ブレーカーは、地震発生時に設定した震度以上の揺れを感じた際、電気を自動的に止める機器です。設置には、ご家庭の状況によっていろいろなタイプから選ぶことができます。

分電盤タイプ

センサーが地震を探知し、設定時間を経過すると、主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。

内蔵型

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感じし、ブレーカーを切って電気を遮断します。

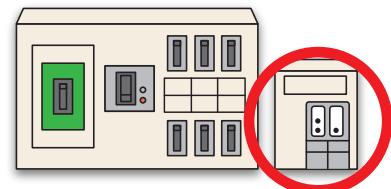
【電気工事が必要】



後付型

分電盤に感震機能を外付けする方式。センサーが揺れを感じし、ブレーカーを切って電気を遮断します。ただし、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能です。

【電気工事が必要】



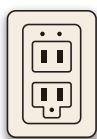
コンセントタイプ

コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感じし、コンセントから電気を遮断します。

埋込型

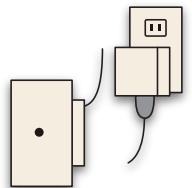
壁面などに取り付けて使用します。

【電気工事が必要】



タップ型

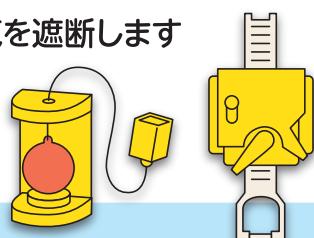
既存のコンセントに差し込んで使用します。



簡易タイプ

バネの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します
(地震の揺れにより、即遮断)。

ホームセンターや家電量販店などで購入可能です。



ご注意!!

急に電気が止まても困らない対策を

生命の維持に直結するような医療機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリーなどを備えましょう
夜間の照明確保のために停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう

耐震対策などと合わせて取り組むとさらに効果的

避難路の確保のために、建物の耐震化や家具の転倒防止などに取り組みましょう

復電する場合には、事前にガス漏れなどがないことの確認や電気製品の安全確認を行いましょう

復電後、焦げたようなにおいを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度安全確認を行いましょう

定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品などの交換を行いましょう

【出典元】 経済産業省「お知らせ 地震の時、自動で電気を遮断できる感震ブレーカーをつけましょう」

お問い合わせ先



関東電気保安協会

<https://www.kdh.or.jp/>

